

オープンスペースでの体育・スポーツ的活動について

○青沼増美（勤労青少年ホーム指導者大学講座）

西野仁（東海大学）

オープンスペース 体育・スポーツ レクリエーション 公園 レジャー行動

研究の目的

生涯体育やみんなのスポーツのための施策の充実が叫ばれている現状のなかで、従来あまり、体育・スポーツ施設としてはとらえられてこなかった公園に注目し、そこで行われている体育・スポーツ的活動の実態を明らかにする。

具体的には、1) 公園の広場の利用状況の時間的推移を明らかにすること と 2) 公園の広場でどのような体育・スポーツ的活動が行われているかを明らかにする。

研究の方法

公園の広場での利用状況をVTRおよび35mmカメラにより撮影し、広場をメッシュし、30分毎の利用者人数、活動内容を整理分析する。

撮影場所 東京近郊の国営S公園内の「みんなの原っぱ」

撮影日時 1988年10月16日と23日の両日曜日

午前9時30分の開園時から午後5時の閉園時まで

撮影の方法

VTRによる撮影：地上4mの高さから、タイムラプスデッキを用い2、26秒に1コマの連続撮影と、地上にて撮影協力者3名がそろって「体育・スポーツ的活動」だと認識した活動を時刻をコールし、録音しながら撮影した。

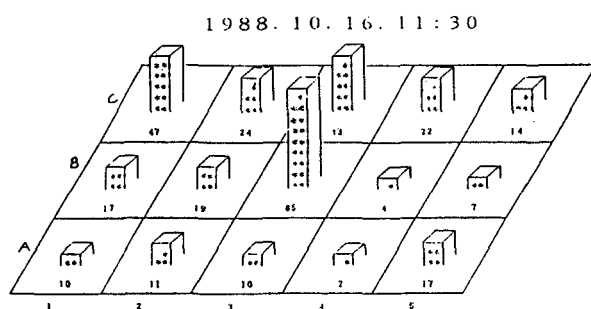
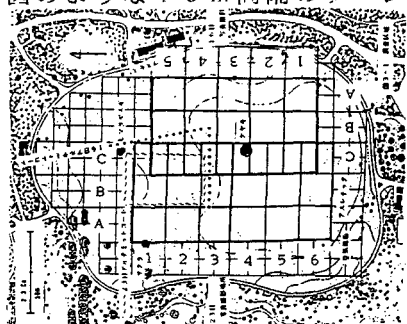
35mmカメラによる撮影：地上4mの高さから30分ごとに全景を撮影した。開園に先立ち、広場をメッシュするために、20m間隔に補助員を立たせ撮影した。

データの集計と分析方法

VTR画面による活動の分析：いつ、どこで、どんな活動が行われていたか。

写真による利用者数のカウント：30分ごとの全体写真を6つ切り大の白黒写真に拡大し、20m間隔のメッシュを縮小して描いたプラスチック製のスケールをあて、人数をカウントし、下左図の集計用紙に記入した。

データのグラフ化：データを見易くするためにコンピュータプログラムSASを用い、下右図のような40m間隔のゾーン毎に柱状グラフを作成した。



結果および考察

1) 利用者数の変動

30分ごとの利用者数の変動は、表1のようであった。

開園時から11時30分までは増加し13時から14時にピークを迎え、15時30分から減少した。この間に、もっとも混雑したゾーンでの1人の占有面積は17㎡であった。

団体は、広場の中心に陣取り活動する傾向が、また家族やカップルは、広場の周辺地域において活動している傾向が認められた。

2) 広場でおこなわれている体育スポーツ的活動

16日は32種類、23日は31種類の活動が認められた。表2は主な活動を示す。

表1 利用者数の変動(30分毎)

時刻	園内区域全域		最高密度			最低密度		
	総人数	1人/㎡	ゾーン	人数	1人/㎡	ゾーン	人数	1人/㎡
1 10:00	33	872.7	C-4	18	88.8	A-1など	0	—
2 10:30	270	106.6	B-3	63	25.3	A-4	0	—
3 11:00	270	106.6	B-6	54	29.6	A-1など	0	—
4 11:30	482	59.7	C-6	68	23.5	A-1	2	800.0
5 12:00	475	60.6	B-3	90	17.7	B-2	0	—
6 12:30	560	51.4	C-5	75	21.3	A-1	1	1600.0
7 13:00	526	54.7	C-4	72	22.2	A-1・B-1	2	800.0
8 13:30	602	47.8	C-4	73	21.9	B-1	1	1600.0
9 14:00	604	47.6	A-6	94	17.0	B-1	5	320.0
10 14:30	439	65.6	B-3	58	27.5	A-1・B-1	1	1600.0
11 15:00	436	66.0	A-6	68	23.5	A-1	0	—
12 15:30	420	68.5	A-6	58	27.5	A-2・B-1	4	400.0
13 16:00	265	108.6	B-3	38	42.1	A-1	0	—
14 16:30	144	200.0	B-2	16	100.0	A-5	1	1600.0

表2 広場内で行われていた主な体育・スポーツ的活動

* 公園施設、プログラム・サービスを利用した活動
空気マットランボルリン、アスレチック、ディスクゴルフ、一輪車、ターザンあそびなど
* 各自が用意した道具を利用した活動
キャッチボール、野球、サッカー、テニス、バレーボール、キックベース、ドッジボール、ビーチボール、バドミントン、フライングディスク、インディアカ、縄跳び、綱引き、パン食い競争などのゲーム、風船とぼしなど
* 道具を使用しない活動
側転などの体操、ダンス、ジャンケン遊び、手つなぎ鬼、だるまさんがころんだ、かげふみ、木登り、親子体操、ジョギングなど

まとめ

公園の広場において、実際に多種多様な体育・スポーツ的活動が展開されていることが、明かとなった。伝統的に我が国の公園は、ボールあそびをはじめスポーツ・体育的活動を禁止している場合が多いが、スポーツに対する欲求の高まりが予想される今日、公園も一つの重要な体育・スポーツ施設であるという認識とどのように管理運営すべきかの検討がされねばなるまい。本研究は、パイロットスタディ的色彩が濃く、細部においては方法的に改良すべき点が多い。しかし、この方法で得たデータは、公園利用者の行動研究に十分有効であるという感触を得た。今後さらに研究を継続したい。